

音楽研究部研究主題

音や音楽のよさや美しさを聴き取ろう
感じ取ろう そして伝え合おう
～音楽的な見方・考え方を働かせ、進んで音楽
に親しみ、音や音楽、音楽文化に豊かに関わる
資質・能力を育成するための授業づくり～

研究副主題

「友達と楽しく関わり合いながら、主体的に歌唱
活動に取り組む児童の姿をめざして」

1 研究副主題設定の理由

本研究は、佐倉市南部地区の3校が合同で進めてきた。実態調査を行うと、歌唱活動への意欲が低い児童が一定数いることがわかった。その理由としては、コロナ禍で音楽の授業や日常の歌唱活動が制限され、授業において思い切り声を出して歌ったり、友だちと関わり合いながら楽しく表現したりする経験が少なかったことが考えられる。

児童がその音や音楽を主体的に表すには、音楽的な見方・考え方を働かせる必要がある。友だちと関わり合いながら、思いや意図をもって歌ったり、聴き合ったりする活動を充実させていくことで、児童が自信をもって表現するようになり、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力が育成され则认为、本副主題を設定した。

2 研究仮説

- (1) 表したい音楽表現につながる日常の活動を工夫して行えば、一人ひとりが自信をもって生き生きと歌唱に取り組むことができるであろう。
- (2) 伝え合う活動を工夫すれば、お互いのよさを認め合い、一人ひとりが意欲的に歌唱活動に取り組むことができるであろう。

3 研究内容

- ①楽しみながら、表したい歌唱表現につなげるための活動
- ②授業中での交流の場の工夫
- ③異年齢間の歌の交流

4 結論

- ・朝の歌や授業の前にミニトレーニングを行うことで、前よりも自信をもって歌える児童が増えた。
- ・曲への思いや意図を表現する際に、ミニトレーニングで得た技能を生かすことで、表したい音楽表現につなげることができた。
- ・兄弟グループや異年齢間の歌の交流を行ったことで、お互いのよさを認め合い、歌唱活動に意欲的に取り組む姿につながった。
- ・歌唱活動をグループで行う際に、正しい音程で歌うことが難しかったり、声が小さかったりする児童が多いクラスでは、1グループの人数を増やすなど、クラスの実態に応じてグループの分け方を工夫する必要がある。

第一部会 佐倉市南部地区

佐倉市立根郷小学校 藤江 希実

佐倉市立弥富小学校 松田 礼奈

佐倉市立和田小学校 山田 真実

1 研究主題

音楽研究部研究主題

音や音楽のよさや美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう
～音楽的な見方・考え方を働かせ、進んで音楽に親しみ、
音や音楽、音楽文化に豊かに関わる資質・能力を育成するための授業づくり～

2 研究副主題

「友達と楽しく関わり合いながら、主体的に歌唱活動に取り組む児童の姿をめざして」

3 研究副主題設定の理由

(1) 学習指導要領との関わり

小学校学習指導要領 第2章 第6節 音楽 第1 目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

児童がその音や音楽を主体的に表すには、音楽的な見方・考え方を働かせることが大切であると謳われている。

音楽的な見方・考え方とは、音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などに関連付けることである。また、音楽的な感性は、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ることを支えとして、自ら音や音楽を捉えていくときに働く。

以上のことを踏まえ、より考えを広げたり深めたりできるように、友達と関わり合いながら、思いや意図をもって歌ったり、聴き合ったりする活動を充実させていくことで、児童が自信をもって表現するようになり、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力が育成され则认为、本副主題を設定した。

(2) 児童の実態から

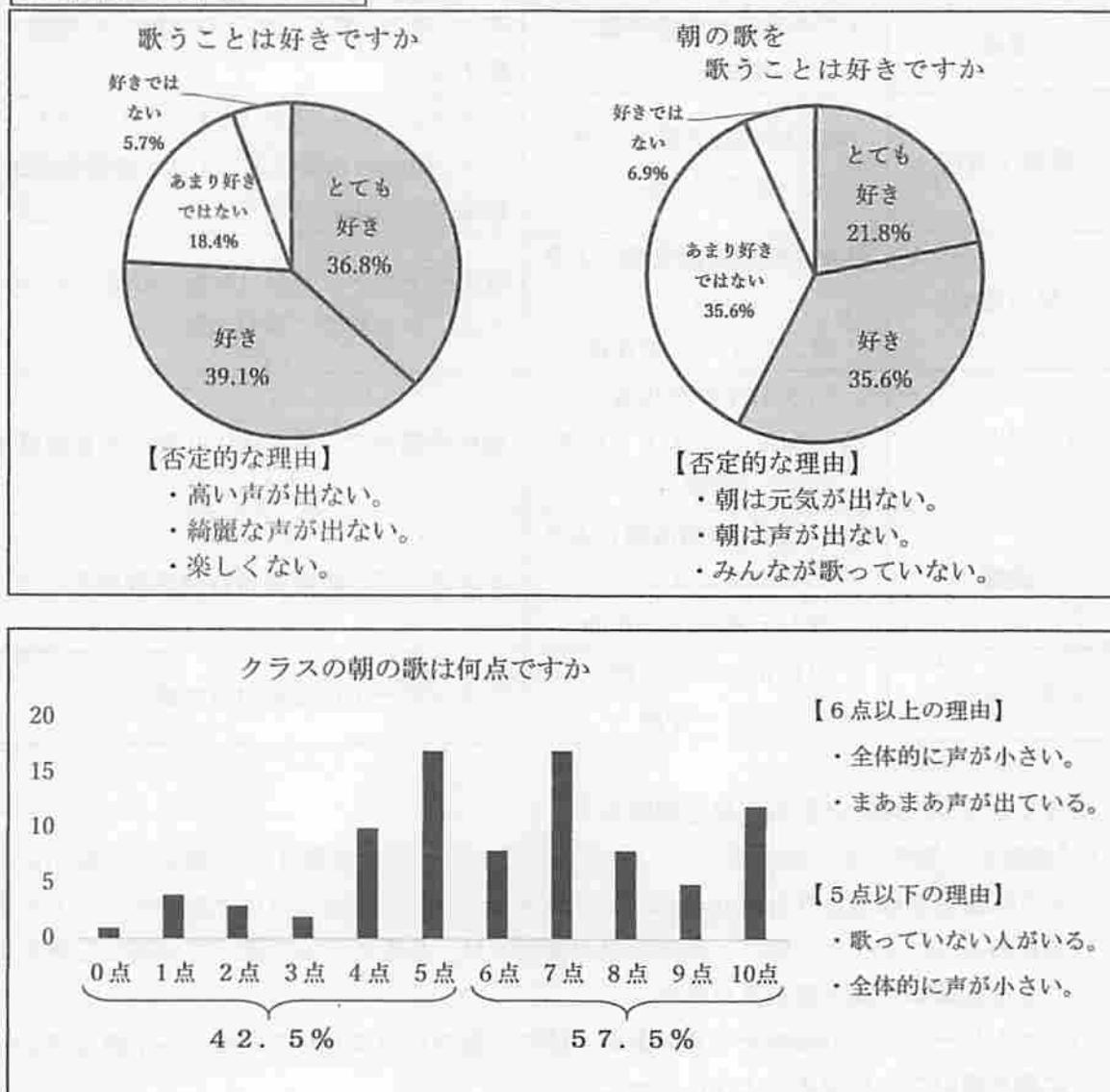
本研究は、佐倉市南部地区の小・中学校を中心とした10校で、情報交換をしたことから始まった。コロナ禍で様々な活動が制限されてきたことの影響もあり、どの学校も、歌唱活動への取り組みに課題があると感じていた。そこで、授業だけでなく、朝の歌などの日常の歌唱活動も充実させようと考え、10校の中の3校（根郷小、弥富小、和田小）が中心となって昨年度の4年生から6年生を対象に事前調査を行い、研究を進めてきた。

事前調査の結果、歌うことに対して、5年生の意識が他の学年と比べて顕著に低いことが

わかった。その理由の一つとして、この学年は、低、中学年時にコロナ禍で、音楽の授業や日常の歌唱活動が制限されており、普段の授業においても、思い切り声を出して歌ったり、友達と関わり合いながら楽しく表現したりする経験が少なかったことが考えられる。実際に、マスクを取ってはっきり口を開けたり、表情豊かに歌ったりすることに恥ずかしさを感じている児童が多く見られた。

以上のことから、このような5年生も、友達と楽しく関わり合いながら主体的に音楽活動に取り組むことができるように、日常の歌唱活動に焦点を当て、全校児童を対象に本研究を進めることとした。

【実態調査(昨年度5年生)】



4 研究仮説

【仮説1】 日常の活動を工夫して行えば、一人ひとりが自信をもって生き生きと歌唱に取り組み、自ら表したい音楽表現につなげることができるであろう。

【仮説2】 伝え合う活動を工夫すれば、お互いのよさを認め合い、一人ひとりが意欲的に歌唱活動に取り組むことができるであろう。

5 研究の実際

(1) 仮説1について

手立て①

楽しみながら、表したい歌唱表現につなげるための活動を行う。

I 『ミニトレニング』（朝の会で歌う「今月の歌」の前や、授業の導入で行う。）

ねらい	曲名	内容
腹式呼吸	「天国と地獄」 オッフェンバック作曲	息を深くお腹にためて、吐ききる動作を繰り返す。
表情	「だるまさん顔面体操」 オリジナル	笑う、怒る、驚く、などの気持ちを表情で表現する。
姿勢・表情	「歌う時の合言葉ソング」 オリジナル	「ストン ピン サッ!」「ニコ!キラ!ヒュッ!」の合い言葉を歌にして、姿勢や表情を意識できるようにする。
早口言葉	組曲「動物の謝肉祭」より 「化石」 サン＝サーンス作曲	音楽やドンドンパッ（左足・右足・手）のリズムに合わせて、早口言葉を言う。
ロングトーン	「かじやのボルカ」 ヨーゼフ・シュトラウス 作曲	地声や歌声で、できるだけ長く音を伸ばす。
跳躍	組曲「動物の謝肉祭」より 「ピアニスト」 サン＝サーンス作曲	オクターブの跳躍を含む発声練習を行う。
スタッカート	「ゆかいに歩けば」 メラニー作曲	スタッカートに気を付けて歌う。

《『ミニトレニング』の成果と課題》

- 「表情よく気持ちをこめて歌う。」「響きのあるきれいな声で歌う。」「歌詞の意味が伝わるように言葉をはっきりと歌う。」など、ミニトレニングで身に付けた歌のポイントを意識できるようになった。特に、腹式呼吸の練習では、息をたっぷり吸ってお腹から声を出すことを意識して歌う姿が見られた。
- ミニトレニングの音源を今月の歌と一緒に1枚のCDにしたことで、各学級でスムーズに取り組むことができるようになった。
- だるまさん顔面体操は、中学年は楽しみながら意欲的に行うことができたが、高学年の中には恥ずかしさが勝ってしまう児童も見られた。
- ポイントを理解し、実際の歌に生かそうとする様子は見られるが、技能面にまだ課題があり活動を継続していく必要がある。

Ⅱ『オリジナル“パワーソング”』（クラス毎に決めた、朝から元気が出る歌を気持ちよく歌う。）

朝の歌に前向きに取り組めなかった児童が、声質にこだわらず歌うことによって、気持ちを高め、朝から生き生きと歌を楽しむことができるように考えた。

〔実際に取り組んだ楽曲〕

	根郷小	弥富小	和田小
1年生	にじ	やまびこごっこ	さんぽ
2年生	翼をください	ピクニック	ありがとうの花
3年生	パワフルパワー	勇気100%	ありがとうの花
4年生	友達だから	君をのせて	雨のちハレルヤ
5年生	拝啓少年よ	タイムパラドックス	We love marines
6年生	ダンスーホール	ルージュの伝言	かくれんぼ

《『オリジナル“パワーソング”』の成果と課題》

○「歌うことが嫌い(特に朝の歌が嫌い)」と答えていた児童が、パワーソングは元気よく楽しく歌えるため、「前より歌うことが好きになった。」「朝の歌が楽しくなった。」と回答していた。

○今までに学校で歌って楽しかった経験として、クラスで歌った場面を挙げていた児童の人数が最初のアンケートの時より増えている。また、朝の歌でパワーソングを歌ったことを具体的に挙げていた児童が多数見られた。

●楽曲を自由に選択するため、楽譜や音源の準備が難しかった。

(2) 仮説2について

手立て①

授業の中で、交流の場を設ける。

I『表現の工夫について話し合う活動』

強弱や表情、ブレスのタイミング等、どのように歌うとよいか、歌詞や旋律、リズムなどを基に考え、友達と話し合いをした。グループごとに拡大譜を準備したり、ミライシードのオクリンクを使って楽譜を送り、タブレット上に考えたことを書き込むことができるようにしたりした。考えたことは歌って確認し、何度も試してより良いものに仕上げていった。

Ⅱ『歌声を聴き合う活動』

授業の導入では、グループ毎に歌いながら表情や声の響き、音程などを聴き合い、確認する場を設けた。歌唱教材の学習では、表現の工夫をする場面で、グループで話し合ったことをもとに歌いながら聴き合い、確かめ合う活動を行った。その際、兄弟グループで発表し、お互いによかったところを伝え合ったり、グループ同士で歌っている様子を動画で撮影したりして、お互いを認め合いながら振り返ることができるようにした。

授業が終わった後の休み時間には、各クラス1グループだけ活動の成果を校長室で披露する場を設けた。

《『交流の場』の成果と課題》

- グループの友達と話し合ったことをもとに歌ってみると、考えていたことと違うことに気づき、「やっぱりこうしよう。」と意欲的にたくさんの考えを出すことができた。
- 友達と話し合いをする際に、タブレット上の楽譜に表現の工夫を書き込むことで、書き直すことが容易になり、書いては歌う活動を繰り返し行うことができた。また、児童が表現したいことを自ら色分けして書き込む様子も見られ、意欲的に活動できた。
- グループで歌声を聴き合いながら表現の仕方を工夫する学習を通して、お互いのよさを認め合いながら、意欲的に活動に取り組む児童の姿が多く見られた。
- 授業が終わった後の休み時間に、1グループだけ校長室で披露する場を設けることで、練習の段階からグループでの歌声を高めていこうと意欲的に交流する姿が見られた。
- 音程にこだわってしまって、表現の仕方に重きをおけないグループもあったため、各グループに音取りのための楽器を用意したり、伴奏の音源を用意したりして、選択できるようにするとよかった。

手立て②

異年齢間の歌の交流を行う。

I 『校内放送の活用』

「昼の歌チャレ“ファーストテイク”」(昼の放送で、一人ひとりの歌声を披露する取り組み)

原則一人で、アカペラで歌声を披露するという取り組みを音楽委員会の主催で行う。今月の歌や学校で歌った歌の中から好きな歌を選び、サビの部分(一部分)だけ、独唱や重唱で披露する。歌い終わった後に、校長先生から、直接、温かいお言葉をいただく。

一人でも堂々と歌声を披露したり、友達の歌声を聴いて、いいところを見つけたりする活動を通して、歌に対する興味・関心を高める。

《『校内放送の活用』の成果と課題 アンケートの回答より》

- 前より自信をもって歌えるようになった理由として、昼の歌チャレに挑戦したことで、校長先生を始め、多くの先生方や友達に褒められたことが嬉しくて自信に繋がったと答える児童がいた。
- 学校全体で取り組むことで、異年齢の仲間一人ひとりの歌声を聴くことができ、「○○さんみたいなきれいな声で歌えるようになりたい。」「私も、あの歌を歌いたい。」などの声が聞かれ、歌への意欲・感心が高まっていく様子が見られた。

II 『6年生と他学年との交流』

6年生が、下級生に「歌う時の合い言葉ソング」や「腹式呼吸のトレーニング」を教えに行ったり、1年生と一緒に今月の歌を歌ったりする活動を行う。

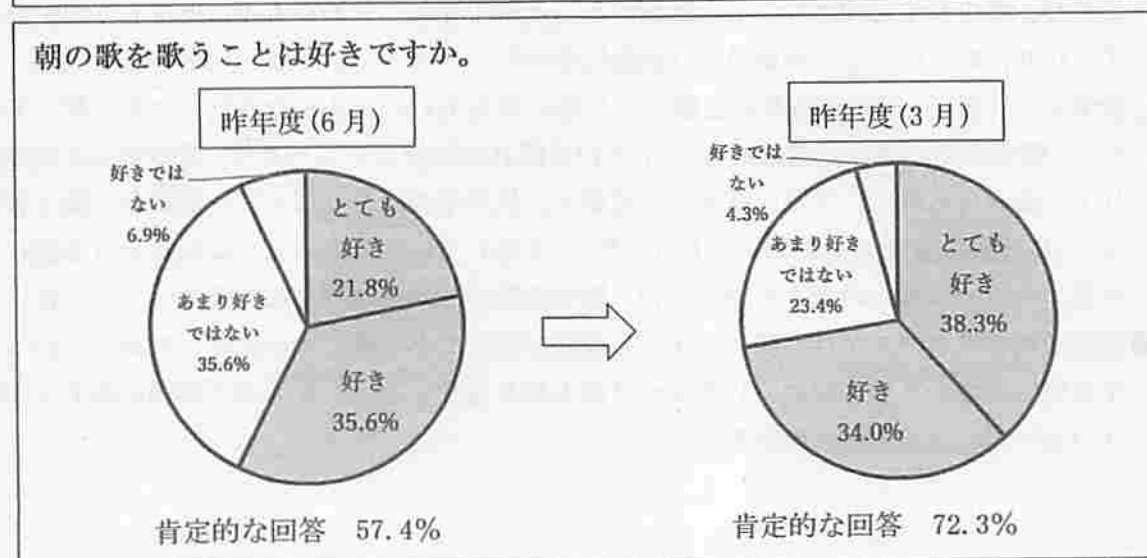
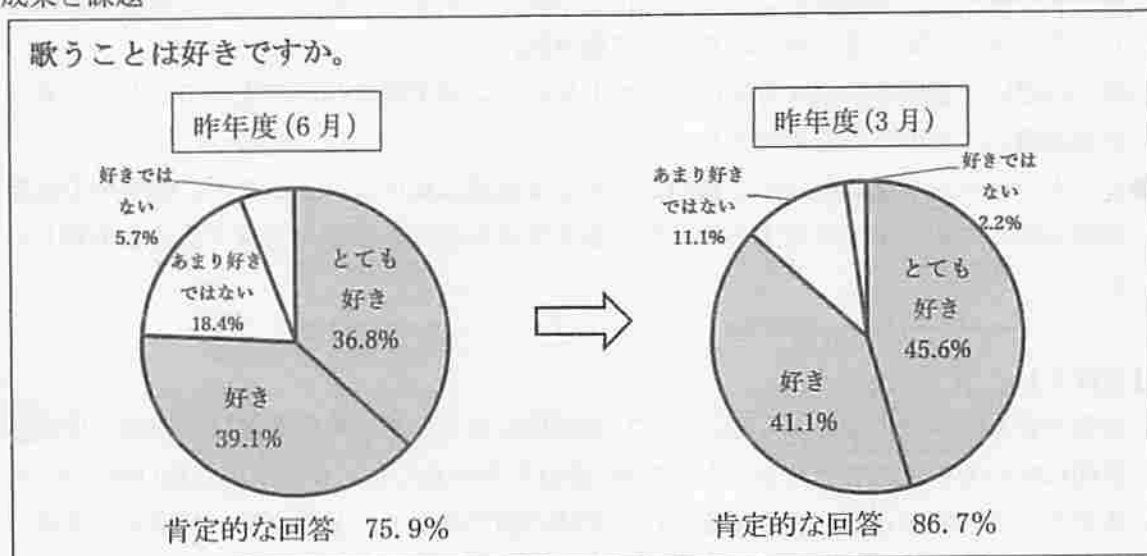
南部中学校から、小学校3校の6年生に向けて、ビデオレターで中学1、2年生の歌声を届けてもらう。

《『6年生と他学年との交流』の成果と課題 アンケートの回答より》

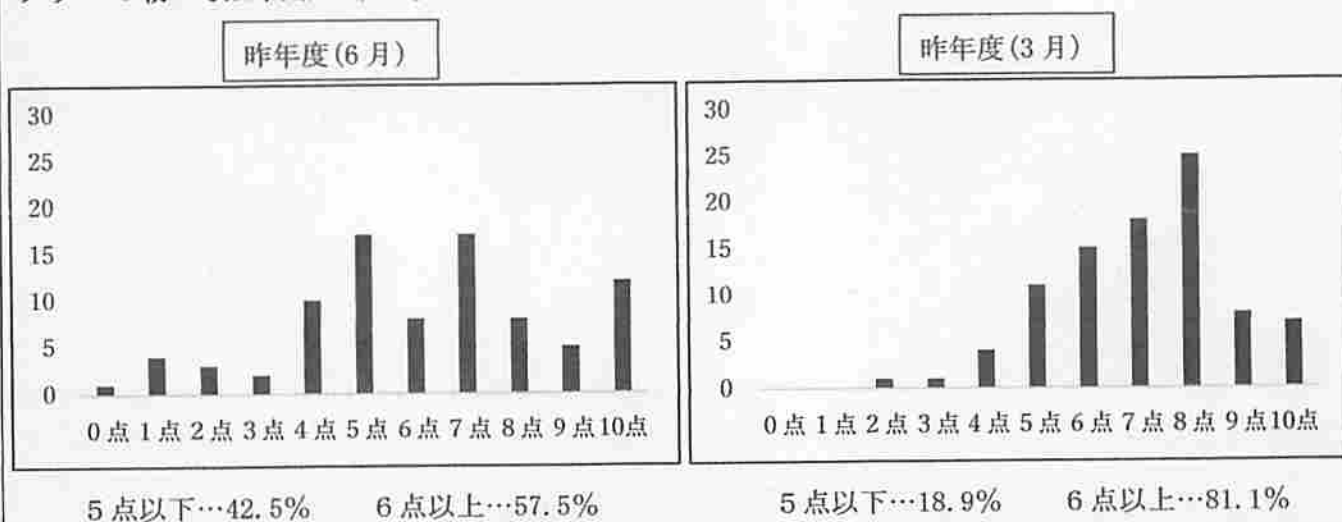
- 「歌う時の合い言葉ソング」や「腹式呼吸のトレーニング」を6年生が下級生に教えに行く活動を通して、全校児童に広めることができた。

- 昨年度、人前で歌うことに抵抗があった児童も、1年生の前では笑顔で歌うことができた
り、「また一緒に歌いたい。」という声があがったりした。
- 6年生は中学生になったら、こんなふうに歌いたいという気持ちを高めることができた。

6 成果と課題



クラスの朝の歌は何点ですか。



【仮説1】

- 朝の歌や授業の前にミニトレーニングを行うことで「前より声が出るようになった。」「口を大きく開けられるようになった。」「気持ちを込めて歌えるようになった。」という意見があり、前よりも自信をもって歌える児童が増えた。
- 朝の歌が嫌いだった児童が、オリジナル“パワーソング”を歌うことで、朝の歌が楽しくなり、生き生きと歌う姿が見られるようになった。
- 曲への思いや意図を表現する際に、ミニトレーニングで得た技能を生かすことで、表したい音楽表現につなげることができた。
- ミニトレーニングを朝の会の活動の1つとして全校に広げようとしたが、低学年では朝の会の限られた時間の中で実施することや、各クラスの担任と内容を共有することが難しかった。

【仮説2】

- 表現の仕方について話し合う際に、ICTを活用したことで、歌唱活動に消極的な児童も、意欲的に歌い方の工夫を考えることができ、自分たちが表したい音楽表現に結び付いた。また、各グループの歌声を聴き合う場面では、全体の前ではなく、兄弟グループ同士で発表し合うことで、緊張せずに練習の成果を披露することができた。発表が苦手な児童も感想を述べやすくなり、お互いのよさを認め合う活動になった。
- 低学年の児童が、高学年の歌声を聴くことで、「自分もいつかあんなきれいな声で歌ってみたい。」「響きのある歌声が素敵だった。」という憧れの気持ちをもったり、歌の楽しさを感じたりする姿が見られた。また、高学年の児童も、低学年の全身を使って一生懸命に歌う姿を見て、「自分たちも元気やパワーをもらった。」と話していた。このように伝え合う活動を工夫することで、お互いのよさを認め合い、歌唱活動に意欲的に取り組む姿につながった。
- 歌唱活動をグループで行う際に、正しい音程で歌うことが難しかったり、声が小さかったりする児童が多いクラスでは、1グループの人数を増やすなど、クラスの実態に応じてグループの分け方を工夫する必要があった。

資料編

資料編

資料編

資料編

資料編

資料編

資料編

資料編

資料編

資料編

資料編

資料編

資料編

第6学年1組、第5学年1組 音楽科学習指導案

指導者 松田 礼奈

展開場所 音楽室

1. 題材名 豊かな表現を求めて

教材名 表現（歌唱） 冬げしき 文部省唱歌 編曲 西崎嘉太郎

【本題材で扱う学習指導要領の内容】

A 表現(1)ア、イ、ウ(イ)

〔共通事項〕(1)ア

・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素
旋律

2. 題材について

(1) 題材の目標

○曲想及び旋律などの音楽の構造や、歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付ける。
(知識及び技能)

○旋律の動きなどを聴き取り、それらのよさなどを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。
(思考力、判断力、表現力等)

○曲の特徴にふさわしい表現をすることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組む。
(学びに向かう力、人間性等)

(2) 題材観

本題材は、「冬げしき」を通して曲想を生かし、拍の流れにのった演奏表現をすることをねらいとしている。音楽の構造や歌詞の内容を理解したり、表現の工夫について話し合ったりすることは、楽曲に対する様々な思いや意図をもつことにつながると考える。また、旋律の動きから強弱のつけ方を工夫したり、歌詞の内容から情景を思い浮かべ、表情や体の動きで表現したりすることは、豊かな音楽表現を求めることにつながると考える。これらは、朝の歌や行事等、学校生活における日頃の音楽活動とも密接に関わり合っている。曲想を感じ取ったり、曲にふさわしい表現を考えたりすることは、日頃からさまざまな曲のよさを感じ取り、曲に合う表現を工夫しようとするにつながると考え、本題材を設定した。

(3) 児童の実態（第5学年 男子6名 女子4名 計10名 うち2名は特別支援学級在籍）

（第6学年 男子1名 女子8名 計9名 うち1名は配慮を要する）

本校の音楽科の学習は、2学年合同で行っており、第5学年、第6学年の児童は、合わせて19名である。日頃の音楽活動について、実態調査を行った。

質問	結果 第5学年	結果 第6学年
①歌うことは好きですか。	・とても好き 7 ・好き 3 (楽しい、気分がすっきりする) ・あまり好きではない 0 ・嫌い 0	・とても好き 5 ・好き 4 (気分がすっきりする、曲が好き、声を出すことが好き) ・あまり好きではない 0 ・嫌い 0
②学校の活動で歌って楽しかった経験はありますか。	・ある 10 (みんなで歌う、音楽発表会、うまく歌えたとき) ・ない 0	・ある 9 (合唱する、みんなで歌う、ステージで歌う、はもったとき) ・ない 0
③どのように歌えるようになりたいですか。	・きれいに 2 ・大きな声で 2 ・うまく 2 ・音を合わせて ・曲に合うように ・正しい音程 ・周りを気にせず	・きれいに 3 ・高音も低音も出せる 3 ・高い声が出せる 2 ・響くように ・大きな声で
④歌うときに気を付けていることはなんですか。	・音程 3 ・間違えない 2 ・姿勢 ・リズム ・大きな声 ・地声にしない ・のどを開ける ・特になし	・音程 2 ・口を大きく開ける ・前のめりにして息を吸う ・低い音を丁寧に ・歌詞を間違えない ・自分のパートに集中する ・高い音を出す ・よく声を出す
⑤歌うときに困っていることはなんですか。	・歌いづらい ・大きな声が出ない ・声が出ない ・歌詞を忘れる ・歌っていない人がいる ・失敗する ・特になし 4	・高い音が出ない ・低い音が出ない ・朝に声が出ない ・特になし 6

第5学年の児童は、日頃から活発な児童が多い。これまでの歌唱の学習では、表情や強弱の表現の仕方に興味をもち、意欲的に学習に取り組んでいた。実態調査においても、歌うことについては、全員が肯定的な回答であるが、朝の歌や授業の様子を見ると、大きな声で堂々と歌うことのできる児童は少ない。自信がなかったり、人前で歌うことへの抵抗感があつたりするのだと考えられる。しかし、以前よりも音程が取れるようになり、少人数でもハーモニーを奏でることができるようになってきている。

第6学年の児童は、少人数の朝の歌でも大きな声で歌っており、その意欲的な様子は実態調査にも表れている。1人では自信のない児童も多いが、複数人で歌う際には、それぞれがしっかりと声を出すことができる。しかし、これまでの歌唱の学習では、一生懸命に歌おうとするあまりに、地声になってしまったり、音程がずれてしまったりする様子がよく見られた。それでも、表現についての声かけに対して、すぐに実践しようとする気持ちがあり、意識しながら歌うことができています。

日頃の音楽科の学習では、人数が倍になることもあり、自信をもって歌うことのできる児童が多い。4、5人のグループで発表をした際にも、2学年が互いに信頼し合い、皆の前でもしっかりと声

を出すことができていた。この姿は、11月の部会音楽発表会に向けて練習をした経験も生きていると考えられる。このことは実態調査にも表れており、③、④、⑤の質問について、7月の調査よりも具体的な回答が増えた。しかし、発声に関する内容が多く、さまざまな曲のよさを感じ取ったり、曲に合う表現の工夫を考えたりしようとする意識は乏しいことがうかがえる。これまでの学習で、歌うことに対する意識は高まっているが、豊かな音楽表現という視点では、まだ課題がある。

(4) 指導観

「冬げしき」はへ長調の4分の3拍子で、六・五のリズムのある文語調の歌詞や、朝・昼・夜の情景が表されていることが特徴的な教材である。また、旋律の動きやリズムが、似ていたり同じであったりするフレーズが複数ある中で、1フレーズだけは異なったものになっている。異なるフレーズは旋律が上行していることから、山場であることが感じ取りやすい。また、似たフレーズが繰り返される際は、リズムが全て同様であることから、旋律の動きに着目しやすい。全体を通して、曲想を感じ取りやすく、それを生かした表現に向けて思いをもち、演奏の工夫に取り組みやすい教材である。

本題材では、曲想を生かして演奏することをねらいとしているが、音程を重視している児童が複数人いることや、自信をもてない児童がいることから、演奏の工夫について話し合う前に、音程の確認をしっかりと行う必要がある。正しく歌えることで、それが自信となり、活発な話し合い活動や演奏表現につながると考える。音程の確認の時間も有意義なものにするために、手や体を動かして、拍や曲の山を意識できるようにしていく。「冬げしき」の情景を思い浮かべる際には、ICT機器を使用し、実際の景色を撮影した写真を提示する。身近な景色を見ることで、文語調の歌詞の意味とその様子が結びつき、表現に生かすことができると考える。表現の工夫については、第5学年と第6学年を混ぜた4、5人のグループで話し合うようにする。その際、音楽の要素の意識だけでなく、姿勢や表情、気持ち等も表現のひとつとして考えるようにさせる。表現のポイントは話し合いの前に確認するが、発声に関する内容については実態調査で多様な回答が出ているため、児童の言葉からたくさん挙げるようにする。歌詞や情景、曲の構造と表現との関わりについては、どのような工夫ができるか、問いかけながら進めていく。話し合いの際には、楽譜をタブレットのオクリンクで送り、どのように歌うか、そこに書き込めるようにすることで、話し合いの途中や発表の際にも、全体ですばやく共有でき、グループ内では思いつかなかった工夫も取り入れることができるため、今後の活動にも生かすことができると考える。

発表は、グループごとに前で行い、発表が終わったら、聴いていた児童に感想を述べさせる。感想も、表現の工夫で挙げたポイントから考えるようにさせ、「きれいだった」や「大きな声だった」というような内容ではなく、「豊かな表現」のねらいに沿ったものとなるように助言する。表現の工夫についての意識が、発表する活動だけでなく、聴く活動にもつながるようにしたい。

特別支援学級在籍の児童2名は、話し合いの会話に加わることや、ワークシートに書くこと等で、支援が必要な場合にのみ、特別支援学級の担任がつくようにする。また、第6学年の支援を要する児童1名は、場面緘黙のため、話し合いでの発言や歌の発表は無理にさせないようにするが、活動自体はグループの児童の中に入って行い、自分の考えが伝えられるように支援する。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①知曲想及び旋律などの音楽の構造や、歌詞の内容との関わりについて理解している。 ②技思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けている。	①思旋律の動きなどを聴き取り、それらのよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	①態曲の特徴にふさわしい表現をすることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。

4 指導と評価の計画 3時間扱い（本時 2／3時間）

次	時配	◎ねらい ○学習内容・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素〕	○教師の指導・支援 ・目指す児童の姿	評価の観点 〔評価方法〕		
				知技	思	態
第一次	第1時	◎歌詞の意味や、曲の特ちょうをとらえよう。 ○範唱を聴き、曲の感じをつかむ。 ・3拍子について確認する。 ・曲の感じについて伝え合う。 ・歌詞の穴埋めクイズをする。 ○歌詞の意味を理解する。 ・意味や情景についてワークシートに書く。 ・歌詞を声に出して読む。 ○情景を想像しながら歌う。 ・音取りをする。 ・拍や旋律に合わせて、体や手を動かしながら歌う。 ☆〔旋律、拍〕 ○どのように歌いたい考える。 ・好きな旋律に印を付ける。	○指揮を振ることで、3拍子を感じ取ることができるようにする。 ○曲調について問いかける。 ・ゆったり ・なめらか ○範唱を聴きながら歌詞を書き込むワークシートを準備する。 ○ICT機器を使い、情景が視覚的にも理解できるようにする。 ○自信をもって歌えるよう、音取りは繰り返し行う。 ○拍や旋律の動きについて、歌いながらも感じ取り、意識できるようにする。 ○旋律だけに注目して考えるように助言する。			

	・自分の考えをワークシートに書く。	○どのような表現の工夫ができそうか、歌詞と曲調から考えるように助言する。	①知(記述)			
第2時 (本時)	◎曲の特ちょうをふまえ、どのように歌うとよいか考えよう。 ○曲の感じや歌詞の意味について復習する。 ○表現の工夫について、グループで話し合う。 ・前時に書いた内容を伝え合う。 ・何番の歌詞を歌うか話し合う。 ・どのように表現するか話し合う。 ・考えたことを歌って確かめる。 ☆【旋律】 ○グループの考えを全体で共有し、演奏の発表をする。 ・タブレットのオクリンクで書いた考えを送り、見合う。 ・1グループが演奏の発表をする。 ・伝わった工夫や良かった点について伝え合う。 ○表現の工夫について、グループで再度話し合う。 ○学習を振り返り、まとめる。	○前時で確認した歌詞の意味や写真を提示する。 ○表現の工夫にはどのようなものがあるか、問いかける。 ・強弱 ・表情 ・体を動かす ○歌詞の意味や情景を想起させるようにする。 ○考えを提出BOXに送るようにし、全体で共有できるようにする。 ○発表するグループの考えを確認し、表現の工夫に注目しながら聴くように助言する。 ○ほかのグループのよいところも取り入れるように促す。 ○話し合いの中で学んだことや、自分の思い、歌う時に意識したこと等について記入するように助言する。	①思(観察・記述)			
第3時	◎考えたことを表現し、表現の工夫についてきき合おう。 ○曲の感じや歌詞の意味、前時に出した考えについて復習する。 ・オクリンクを見ながら、グループごとに歌って確かめる。 ○1グループずつ発表する。 ・グループ内で考えた工夫につい	○発表に向けて、復習と練習の時間をとる。 ○表現だけで伝えることができるようにすることを確認する。 ○発表したグループがどのような工夫をしていたか、問いかける。	①技			

	て意識しながら歌う。 ・どのような工夫をしているのか、聴きながら考える。 ・伝わった工夫や良かった点について伝え合う。 ☆【旋律】 ○全員で歌う。 ・グループ発表で良かった部分を取り入れて歌う。 ○学習を振り返り、まとめる。	○どうしてそのような工夫にしたのか、発表者にも問いかける。 ○発表で感じたことや、歌う時に意識したこと等について記入するように助言する。	（聴取）	観 ① 発言・観察・記述
--	---	--	-------------	-------------------------

5 本時の指導（2／3）

（1）本時の目標

曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。

（2）本時の展開

時配	○学習内容 ・ 学習活動 ☆音楽を形づくっている要素	仮説Ⅰ (手立て①) ○発問や支援 ・ 目指す児童の姿	評価の場面 (評価方法)		
			知技	思	態
2	○声の準備運動を行う。 ・ 音楽に合わせて腹式呼吸をする	○次の歌唱活動を意識できるよう、助言する。			
2	○「冬げしき」の曲の感じや歌詞の意味について復習する。	○前時で確認した歌詞の意味や写真を提示する。			
2	○本時のめあてを確認する。	○歌詞の意味や曲調を理解したことは、どのような場面で生かすことができるか問いかけることで、表現への意識が高められるようにする。			
曲の特ちょうをふまえ、どのように歌うとよいか考えよう。					

仮説2
(手立て①)

15	○表現の工夫について、グループで話し合う。 ・前時に書いた内容を伝え合う。 ・どのように表現するか話し合う。 ・考えたことを歌って確かめる。 ・決まったことは、オクリンクの楽譜に書き込んでいく。 ☆【旋律】	○グループ活動の前に、表現の工夫にはどのようなものがあるか、全体で確認する。 ・強弱 ・表情 ・体を動かす ○発表では、3番までの中から好きな歌詞を選んで歌うことを確認する。 ○ワークシートに書いた自分の考えをグループ内で共有することで、それをもとに表現の工夫が考えられるようにする。 ・音の高さが上がるから強く歌う。 ・寒い景色を想像して優しく歌う。 ・昼の景色は明るく歌う。 ・高い音が美しく出るように目を開ける。 ○提示資料やワークシートを振り返るように促し、歌詞の意味や情景が想起できるようにする。 ○オクリンクに楽譜のデータを送り、話し合ったことを記号や言葉で書き込むようにする。
7	○グループの考えを全体で共有し、演奏の発表をする。 ・タブレットのオクリンクで書いた考えを送り、見合う。 ・1グループが演奏の発表をする。 ・伝わった工夫や良かった点について伝え合う。	○考えを提出BOXに送るようにさせ、全体で共有できるようにする。 ○発表するグループの考えを確認し、表現の工夫に注目しながら聴くように助言する。
10	○表現の工夫について、再度グループで話し合う。	○ほかのグループのよいところも取り入れるよう促す。 ○話し合いの様子を見て、もう1グループ発表する場を設ける。
7	○学習を振り返り、まとめる。	○話し合いの中で学んだことや、自分の思い、歌う時に意識したこと等について記入するよう助言する。

(3) 板書計画

曲の特ちょうをふまえ、どのように歌うとよいか考えよう。	
今日の流れ ①先週の復習 ②話し合い ③共有・発表 ④話し合い	1・2段目の拡大譜
ポイント ・歌詞の意味 ・景色 ・せんりつ ・リズム 工夫 ・強弱 ・表情 ・体の動き	3・4段目の拡大譜

ホワイトボードに、縦書きの歌詞、景色の写真、前時の学習の内容を掲示する。

第5学年1組 音楽科学習指導案

指導者 藤江希実

展開場所 音楽室

1 題材名 にっぽんのうた みんなのうた

教材名 表現(歌唱) スキーの歌 文部省唱歌 作詞：林柳波 作曲：橋本国彦

【本題材で扱う学習指導要領の内容】

A 表現(1)ア、イ、ウ(4)

〔共通事項〕(1)ア

・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素
変化

2 題材について

(1) 題材の目標

○曲想と旋律など音楽の構造や、歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない響きのある歌い方で歌う技能を身に付ける。
(知識及び技能)

○曲想の変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。
(思考力、判断力、表現力等)

○歌詞や曲想を生かして表現することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組み、日本の歌に親しむ。
(学びに向かう力、人間性等)

(2) 題材設定の理由

長い間多くの人々に親しまれてきた日本の歌には、季節や自然などの風情や美しさを感じ取り、愛おしんできた日本人の感性が息づいている。本題材は、そんな日本の歌に親しみ、よさを味わうことにより我が国や郷土の音楽に愛着がもてるようにすることをねらいとしている。そのために、「スキーの歌」を教材として、旋律の動きやリズム等の変化に着目し、それぞれの旋律に合わせて、弾んだ感じや滑らかな感じなど歌い方や強弱を変化させ、意図をもって工夫していくことで、そのよさや美しさを味わいながら、我が国の音楽に愛着がもてるようにしたいと考え、本題材を設定した。

(3) 児童の実態(男子16名 女子12名 合計 28名 うち4名は特別支援学級在籍)

本学級の児童は、音楽の学習において、器楽合奏には意欲的に取り組むが、歌唱活動となると声が小さく、表情も硬い児童が多かったため、日頃の歌唱活動について実態調査を行った。

質問①	歌うことは好きですか。※理由も記載
回答	○とても好き(10名) ○好き(8名) ●あまり好きではない(3名) ●好きではない(3名) 【理由】 ○楽しいから(5名) ○気持ちがいいから(4名) ○気持ちがすっきりするから ○嬉しくなるから ○あまり声がでなくなってきたけどどちらかという好きだから ○みんなと歌えるから ○前より歌えるようになったから ○リズムに乗って歌うのが好きだから ○気分が上がるから ●声があまりでない(2名) ●はずかしいから(2名)

	●音程をとるのが難しいから ●あまり楽しくない(2名) ●面倒くさい
質問②	歌うときに気を付けていることは何ですか。(複数回答可)
回答	・地声にならないように(4名) ・きれいな声(3名) ・大きい声(3名) ・音程(3名) ・姿勢(3名) ・強弱(2名) ・口を大きく開ける(2名) ・裏声を出す(2名) ・声を響かせる ・声が裏返らないようにしている ・お腹を使う ・歌詞を間違えないように ・聴いている人の気持ちがよくなるように歌う
質問③	歌うときに、困っていることはありますか。(複数回答可)
回答	・声が出しづらい(5名) ・すぐに地声になってしまう ・響く声あまり出ない ・高い声あまり出ない ・裏声を出すときにかすれてしまう ・声が出なくて苦しくなる ・声変わりの途中で歌うと喉が痛くなる時がある ・朝歌うときに声が小さくなってしまふ ・やる気が出ない ・特にな(11名)
質問④	どんなふうに歌えるようになりたいですか。(複数回答可)
回答	・きれいな声(7名) ・高い声から低い声まできれいな声(3名) ・声を響かせて(2名) ・高い声をもっと出せるように(2名) ・地声にならないように ・リズムよく ・正しい音程で ・いつでも声が出せるように ・気持ちがみんなに伝わるように ・作曲家の気持ちを考えながら強弱を工夫できるように ・聴いている人が、楽しくなったり、いいなと思ったりしてもらいたい ・表情よく笑顔で ・人前でも堂々と歌えるように ・自由に歌いたい
質問⑤	今まで、歌い方を工夫したときに、どんなことを意識して工夫しましたか。(①) また、歌い方を工夫すると、どんな効果があると感じましたか。(②) (複数回答可)
回答	① ・強弱(10名) ・速度(8名) ・歌う人数(3名) ・なめらかに ・明るく ・姿勢 ② ・気持ちが伝わりやすい(10名) ・歌詞の意味が伝わるようになる(5名) ・心が落ち着く ・情景が浮かび心に響く ・気持ちを表しやすい ・集中できる ・聴いている人に表現が伝わると楽しく歌を聴いてもらえる ・きれいな声が出る ・無回答(4名)

実態調査の結果から、本学級の3分の2の児童が、歌うことに対して好感をもっていることがわかった。しかし、3分の1の児童は、好感をもてず、「楽しくない」「恥ずかしい」「面倒くさい」ということが理由として挙げられていた。また、歌うときに困っていることとして、「声が出しづらい」「裏声を出すときにかすれる」「声が出なくて苦しい」など技能的に困難さを感じている児童も複数見られた。

しかし、どんなふうに歌えるようになりたいかという質問に対して、歌うことに好感をもてない3分の1の児童も、「綺麗な声で歌えるようになりたい」「高い声が出せるようになりたい」「自由に歌いたい」などと回答をしている。

この結果を踏まえて、朝の歌や音楽の授業の導入時に、ミニミニ発声トレーニングとして、綺麗な声を響かせる練習や高い声にチャレンジする練習などを行っている。また、自由に楽しく歌える曲をクラスで選び、「朝から元気が出るパワーソング」を歌うなど、様々な取り組みを試みている最中である。特に、変声期に伴って声が出しづらくなっている児童が多いため、無理なく自然な声で歌うことができるように音域を下げるなど配慮をしながら取り組むように努めている。

音楽科の授業では、「赤とんぼ」の学習で、歌詞の内容から想像した情景や気持ちが、聴き手に伝わるように歌うにはどうしたらよいかを考え、強弱や速度、演奏形態(歌う人数)を工夫する活動をグループで行った。その際、歌詞と旋律との結びつきにも着目させたが、旋律より歌詞に焦点をあてて取り組んだ。

次に扱った「冬げしき」の学習では、歌詞の内容を理解した後に、旋律の特徴に焦点をあて、旋律の流れを感じ取りながら歌う活動を行ってきた。これらの学習を「スキーの歌」に繋げていきたい。

(4) 指導観

教材曲「スキーの歌」は、昭和8年に文部省発行の「新訂尋常小学唱歌 第六学年用」にて発表された。当時流行していたスキーを題材にした、リズムカルでスピード感のある曲である。現代の子どもたちは、スキーの経験がない子も多いため、写真や映像を用意して、歌詞に表れている情景や疾走感等を想像できるようにする。そして、曲の旋律とリズムに着目させ、付点のリズムで始まるフレーズや、7度や6度の跳躍を含んだフレーズなど、似ている旋律と全く違う旋律の変化に気付かせ、それぞれの旋律に合わせて、弾んだ感じや滑らかな感じなど、歌い方や強弱を変化させながら表現の仕方を工夫させる。その際、最初は個々に自分の考えや思いを、旋律が印刷されたワークシートに書き込む。次に4～5人のグループになり、お互いの考えを伝え合う場を設けながら、拡大譜にグループで話し合っただけのことを書き込む。そして、実際に歌って試しながら、表現の工夫を考え、主体的・協働的に学習活動に取り組ませていきたい。

3. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①知 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりについて理解している。 ②技 思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない響きのある歌い方で歌う技能を身に付ける。	①思 曲想の変化を聴き取り、そのよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	①態 歌詞や曲想を生かして表現することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組み、日本の音楽に親しもうとしている。

4. 指導と評価の計画(3時間)(本時2/2時間)

次	時配	◎ねらい○学習内容・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素〕	○教師の指導・支援 ・目指す児童の姿	評価の観点 〈評価方法〉			
				知・技	思	態	
		◎歌詞の情景や意味を理解し、曲の特ちょうをとらえよう。					

第 一 次	第 1 時	○「スキーの歌」の歌詞の情景や意味を理解し、曲全体の雰囲気を感じ取る。 ・「スキー」の映像を見て、イメージを高める。 ・「スキーの歌」の範唱を聴きながら、穴あきの歌詞を完成させる。 ・歌詞の中に出てくる難しい言葉の意味を理解する。 ○歌いながら旋律を覚える。 ・情景を思い浮かべながら歌う。 ○各段の旋律を比べ、旋律の特徴を捉える。 ・各段を比べて気付いたことを発表する。 ・各段のリズムや旋律の変化に着目し、特徴を捉える。 ☆〔変化〕	○最初に曲名だけ伝え「スキー」の疾走感やリズムカルに滑る様子、雪山の情景など歌詞の意味や曲想が伝わるような画像や動画を提示し、イメージを高める。 ・「スキー」のスピード感やリズムによって滑っている様子を感じ取る。 ○穴あきの歌詞を完成させる際に、繰り返し範唱を流して聴き取らせる。 ・範唱を繰り返し聴くことで、リズムや旋律を覚え、部分的に歌えるようになる。 ○難しい言葉を発表させ、説明をする。 ・歌詞の情景や意味を理解する。 ○画像を提示し、範唱を流す。リズムを意識して弾むように歌っている児童がいたら、理由を聞く。 ・旋律を覚えて歌えるようになる。 ○歌詞付きの拡大譜を提示し、リズムや旋律の動きに着目させる。 ・1、2、4段目はタッカのリズムから始まっているが、3、5段目はリズムが変化していることに気付く。 ・何番の歌詞で歌い方を工夫するか決める。	①知(発言・聴取)	②技(聴取・タブレット)	③思(記述・発言)	④観(観察・記述)
	第 2 時 本 時	◎曲の特ちょうに合った歌い方を工夫しよう。 ○旋律の動きやリズムに合った歌い方を工夫する。 ・個々に歌い方を考える。 ・グループごとに話し合い、歌い方を決める。 ○グループで発表し合う。 ・どのような工夫をしたのかを聴き手に伝わるか確認し合う。 ☆〔変化〕	○段ごとに、旋律の動きやリズムの変化に着目させる。 ・弾む感じや滑らかな感じなどの歌い方や強弱の変化など、表現の工夫を考える。 ○グループごとに話し合って決めたことを拡大譜に書き込むようにさせる。 ・歌い方の工夫を実際に歌って確かめながら決める。 ○兄弟グループで発表し合い、どのような工夫をしたのかを聴き手に当てさせるようにする。また、聴き手のグループが相手のグループの発表をタブレットで撮影し、提出させる。 ・聴き手に、歌い方や強弱の変化など、表現の工夫がしっかりと伝わるように意識して歌う。				

5. 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

曲の特徴に合った歌い方を工夫し、聴き手に伝わるように歌うことができる。

(2) 本時の展開

次	○学習内容・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素〕	○教師の発問や働きかけ ・目指す児童の姿	評価の観点 〔評価方法〕		
			知・技	思	態
10	○発声練習を行う。 ○前時の振り返りを行い、本時のめあてを確認する。 ・段ごとの旋律の特徴を振り返り、本時は、その特徴に合った歌い方を工夫することを理解する。 ☆〔変化〕	○前時に着目した、リズムや旋律の動きなどの変化を拡大譜面で確認し、歌詞の内容や情景がより伝わるように、旋律の特徴に合った歌い方を工夫することを伝える。 ・本時のめあてを理解する。			
	曲の持ちように合った歌い方を工夫しよう。				
25	○旋律の動きやリズムの変化に合った表現の仕方を工夫する。 ・個々に表現の仕方を考える。	○段ごとに、旋律の特徴や変化に注目させ、どのように歌いたいのか、個々の考えをワークシートに書かせる。 ・1、2、4段目は、弾むように歌う。なぜなら、タッカのリズムで始まっているから。 ・1と2段目は似ているけど、1段目の方が音が一気に上がっている部分があるから勢いよく強く歌う。等 ○グループに1枚用意した拡大譜に1人ずつ付箋を貼って自分の考えを伝えてから、グループで話し合わせる。また、拡大譜には、強弱記号を記載せず、自分たちで歌い方を工夫する際に強弱や速度の変化などを書き込むことができるようにする。 ・1段目 弾んだ感じ 強く 2段目 弾んだ感じ やや強く 3段目 滑らかな感じ やや弱く 4段目 弾む感じ 強く 5段目 力強く 大変強く			

仮説2
(手立て①)

・グループごとに話し合い、どのように歌うかを決める。
☆〔変化〕

思
① (記述・発言)

仮説2
(手立て①)

- 7 ○今日の成果を発表し合う。
・兄弟グループで聴き合い、歌い方や強弱の変化など、表現の工夫が聴き手に伝わるか確認し合う。
☆〔変化〕

- 3 ○学習の振り返りをする。
・自分の言葉で学習のまとめを書く。

- ・1番⇒これから滑るワクワク感
- ・2番⇒滑り始めた楽しい気持ち
- ・3番⇒空を飛んでいるような気持ち

- お互いに発表を聴き合い、どのような工夫をしたのかを当てさせたり、工夫が大変よく伝わったで賞など特別な賞を授与したりする。また、聴き手のグループに相手のグループの発表をタブレットで撮影させる。最後に提出させ、評価の参考にする。
- ・聴き手に、表現の工夫がしっかりと伝わるように意識して歌う。

- ・ワークシートに、曲の特徴に合った歌い方を工夫して、聴き手に伝わるように歌うことができたか、また、日本の音楽に親しむことができたか自己評価をする。

② 聴取・タブレット

① (記述・観察)

(3) 板書計画

<今日の流れ> ①前時の振り返り ②歌い方を工夫 (個人⇒グループ) ③グループ発表 ④今日の振り返り	曲の持ちように合った歌い方を工夫しよう。 「スキーの歌」 1・2段目の拡大譜
<ポイント> ・歌詞の意味 ・せんりつ ・リズム ◎変化 <工夫> ・強弱 ・弾むように、なめらかに	3・4・5段目の拡大譜

ホワイトボードには、前時で使った、歌詞の意味が伝わるような画像と縦書きの歌詞を掲示する。

根郷小学校 今月の歌

令和6年度 今月の歌

曲名	曲名
1-2	★ 合い言葉ソング (歌入り→1曲目 伴奏→2曲目)
3-4	4月 『校歌』 & 『にじ』 ♡ 曲の山をもうあげて! & 校歌の魅力に迫る!? (★「校歌」(スズメ))
5-6	伴奏のみ (6曲目→校歌 7曲目→にじ)
7-8	5月 『ゴーゴーゴー』 & 『クラスのパワーソング』 ♡ 運動会ソング & クラスの歌でパワーアップ! (★「校歌」(スズメ))
9-10	伴奏のみ (クラスのパワーソング) CD後日作成
11-12	6月 『赤い屋根の家』 ♡ (3拍子)・低音から高音へきれいにジャンプ! (★「校歌」(スズメ))
13	伴奏のみ
14-15	7月 『青空へのぼろう』 ♡ お腹を使って弾むように! (★「校歌」(スズメ))
16	伴奏のみ
17-18	9月 『語り合おう』 ♡ 気持ちが伝わるように! 手拍子チャレンジ! (★「校歌」(スズメ))
19-20	伴奏のみ
21-22	10月 『つばさをください』 ♡ のびしながら盛り上げる! (★「校歌」(スズメ))
23	伴奏のみ
24-25	11月 『いつまでも』 根郷小150周年記念曲 ♡ たったの気持ちで表現力豊かに! (★「校歌」(スズメ))
26	伴奏のみ
27-28	12月 『パワフルパワー』 ♡ 言葉をはっきりと! ラストにキメのポーズ! (★「校歌」(スズメ))
29	伴奏のみ
30-31	1月 『カントリーロード (英語版)』 ♡ 原曲の英語でチャレンジ! 手拍子を感じながら! (★「校歌」(スズメ))
32	伴奏のみ
33-34	2月 『また会う日までさようなら』 ♡ 卒業ソング 感謝の気持ちをこめて! (★「校歌」(スズメ))
35	伴奏のみ
36-37	3月 『大切なもの』 ♡ 伝えたい言葉に魂を込めて! (★「校歌」(スズメ))
38	伴奏のみ
39-40	おまけ 『君が代』 (式典用)

♪ ○で囲まれた番号の曲は、ミニトレーニングの曲です。続けて今月の歌が歌えるように今月の歌ごとに入れてあります。
(11月以降は曲無しのトレーニングとなります。)

♡→めあて ★→ミニトレーニングの内容 (詳しいやり方について、3年生以下は、6年生に伝達をしてもらいます。4年生以上は音楽の授業で。)

弥富小学校 今月の歌

令和6年度

こんげつ うた
～今月の歌～

月	曲名	曲名	曲名
4月	さんぽ	P.22	☆ストンデンバ
5月	パワフルソング (学年の歌)	P.	☆あふくこ
6月	赤い屋根の家	P.54	☆あふくこ
7月	青空へのぼろう	P.29	☆あふくこ
8月	翼をください	P.177	☆あふくこ
9月	未知という名の船に乗れ	P.158	☆あふくこ
10月	語りあおう	P.60	☆あふくこ
11月	エトはメロメロランド	P.110	☆あふくこ
12月	またあふくこ	P.134	☆あふくこ
1月	心の中にきらめいて		
2月	今月の歌をふり返って		
3月			

みんなのきれいな歌声を教室いっぱいひびかせよう!

歌う時の

あいことば ソング♪

かたを あげて おろす **ストン!**
 せなかは ピンと のばそう **ピン!**
 あしは サッと ひらくよ **サッ!**

うたの「しせい」ができました

(~次は「表情」いってみよう! ~)

ほっぺを あげて ニッコリエがお **ニコ!**
 おめめも ぱっちり あけましょう **キラ!**
 まゆげも うえに あげまして **ヒュッ!**

おうたの「おかお」もできました

ストン ピン サッ!**ニコ キラ ヒュッ!**

これでうたいましょう!
 レッツ シング!

歌う時の「合い言葉」ソング

令和6年度 今月の歌

準備運動

1	4月	校歌	13
2	4月	さんぽ・クラスソング	15
3	5月	ゴーゴーゴー(運動会の歌)	17
4	6月	赤い屋根の家	20
5	7月	夏だ	21
6	9月	つばさをください	19
7	10月	パワフルパワー	18
8	11月	里の秋	17-19
9	12月	かたりあおう	15-20
10	1月	エトはメリーゴーランド	18
11	2月	またあう日までさようなら	19-20
12	カラオケ	またあう日までさようなら	
	3月	卒業式の歌・クラスソング	



声の準備運動

13	姿勢	歌の合言葉
14		歌の合言葉(カラオケ)
15	表情	だるまさんの顔面体操
16		だるまさんの顔面体操(カラオケ)
17	腹式	天国と地獄
18	早口言葉	化石
19	長い息	かじやのポルカ
20	発声	ピアニスト
21	スタックカート	ゆかいに歩けば



和田小学校 今月の歌